

智山書庫藏「持戒清浄」関係資料について

—白上峯の邂逅、そして智積院歴代能化—

研究員 小宮 俊海

一 はじめに

本稿は現在、真言宗智山派総本山智積院（京都市東山区）の智山書庫に所蔵される「持戒清浄」関係資料について紹介した旧稿^①から更に見出された二点の問題を提示するものである。「持戒清浄」関係資料とは、稿者が通称するもので、梶尾上人明恵房高弁（一一七三—一二三二）が紀州東白上峯への下向の際、文殊菩薩より顕密一切の戒律を総受することのできる印明を授かったとされる内容の資料の総称である。これらは、印信、血脈、紹文を中心に、それに関わる聞書ならびに伝受識語など多様な内容が含まれており、様々な形式の資料が伝えられている。

二 文殊菩薩と明恵上人の邂逅

明恵が文殊の影響を受けた現場が、白上峯であることは、根本伝記『仮名行状』巻上からいわれることであるが、「持戒清浄」関係資料においては、明恵が文殊より持戒清浄印明を授けられた場所として、「白上峯」と「白崎」との二種をあげることができる。現在、施無畏寺（和歌山県

湯浅町栖原）の後背の山頂には、国指定史跡「明恵上人紀州八ヶ所遺跡」として「東白上峯」に石柱が立てられている^②。しかし、紀州白崎（現和歌山県由良町）にて明恵が修行をしていたことについても『漢文行状』巻中から見出すことができる。明恵が文殊の影響を受けたのは、東白上峯であると伝記資料から理解されるが、「持戒清浄」関係資料においては、白崎での修行時期との混同がみられる。

三 智積院歴代能化と「持戒清浄」関係資料

智山書庫藏「持戒清浄」関係資料には、智積院歴代能化が血脈等に登場するものではなく、金沢文庫や高山寺所蔵資料と同じく多くは仁和寺心蓮院顕証（一一五九—一二一六）から相伝されるものが中心である。そして、そこにつながるのは房州組といわれる智山書庫藏資料に多く見出される智積院の学匠がほとんどである。ただし、『持戒清浄観応記』（智山書庫一九函二〇号四三番）には、根来寺大伝法院智積院玄紹房日秀能化（一二四九—一五七七）の名が伝受識語から見出される。しかし、納富常天氏は、日秀から高野山無量光院高海へ相伝されたもの、智積院第四世長存房元寿（一一七五—一六四八）から六波羅蜜寺慧範、さらに越前瀧谷寺寛海へと相伝される資料の存在を報告している^③。また、中山一麿氏は、『隨心院聖教二八函三四号』において、日秀相伝の血脈を紹介している^④。

また、智積院第二十二世動潮能化（一七〇九～一七九五）相伝の大伝法院流においても『持戒清浄印信併口決』が伝えられている¹²⁾。

四 おわりに

以上、旧稿に紹介した智山書庫蔵「持戒清浄」関係資料を検討した際に新たに見出された二点の問題を提示した。具体的には、明恵が文殊の影響を受けた場所として、『仮名行状』巻上には「東白上峯」とされるものが、「持戒清浄」関係資料においては「白崎」説が見られる点。そして日秀・元寿といった智積院歴代能化の名前が、先行研究から他所蔵資料に見出されるにも関わらず、智山書庫所蔵資料には日秀の伝受識語が一点見出されるのみで、血脈・相伝から見出すことができない点を指摘することができる。

注

- (1) 拙稿「智山書庫蔵『持戒清浄』関係資料について——『持戒清浄大事』を中心に——」『密数学研究』四五号、二〇一三年三月、二〇七～二三二頁。
- (2) 『観自在菩薩恒嚩多唎随心陀羅尼經』所説「清浄持戒印」（『大正藏』二〇巻、四六五頁上）を本軌とする印明である。
- (3) 『仮名行状』巻上、三八ウ～三九オ（『明恵上人資料』第一、二六頁）。
- (4) 『持戒清浄印明』五ウ（智山書庫蔵二七函一九号二番）。前述拙稿に翻刻本文をあげる。この記述はほとんどの「持戒清浄」関係資料に共通する。
- (5) 『持戒清浄印明』一ウ（智山書庫蔵二七函一九号二番、真常『諸儀軌票

承録「持戒清浄戒印」（『続真全』二巻、三二頁下）等他。

- (6) 景山春樹「明恵上人の遺跡を尋ねる」『仏教芸術』三二号、一九五七年九月、八四頁上。

- (7) 『漢文行状』（上山本・法恩院本）巻中（『明恵上人資料』第一、二〇・一八九頁）。

- (8) 小笠原弘道「江戸時代後期智山学匠の聖教筆写活動——智山書庫収蔵写本聖教の奥書から——」『現代密教』十七号、二〇〇四年三月、一六一～一七六頁。

- (9) 『智積院玄紹 日秀法印／木食政真ヨリ相傳 栄瑜／慶長十七年七月十五日／』四オ。

- (10) 納富常天「明恵の『持戒清浄印明』について」『金沢文庫研究』二六（二）号（二六二号）一九八〇年三月（『明恵讃仰』二七号、二〇〇一再録、八頁下）。

- (11) 中山一麿「『持戒清浄印明』における相承と展開——『仏教修法と文学的表現に関する文献学的考察——夢記・伝承・文学の發生——」大阪大学大学院文学研究科、二〇〇五年三月、七八頁上。

- (12) 『伝法院方並広沢通用聖教等目錄』巻一（鈴木版『大日仏』九六巻、一七頁下）。